

穴吹デザイン専門学校「卒業制作講評会」を取材して

(一社) 広島県建築士事務所協会 情報・編集委員会青年部会

穴吹デザイン専門学校様で行われた卒業生による制作講評会を取材しましたので、ご紹介させていただきます。講評会に先立ち、午前中は基調講演がありました。

講師は東京を起点に活躍されているデザイナー
名児耶^{なごや}秀美さんと SUPPOSE DESIGN

OFFICE の谷尻誠さんでした。名児耶さんはデザインを活用することで新しいライフスタイルを提案する会社 h concept (アッシュコンセプト) の代表で、様々な業種の様々な人とコラボして、プロダクトを生み続けていらっしゃいます。会社のコンセプトは「すべてのモノは、デザインが繋いでいる。デザイナーのメ

ッセージを世界に届けるブランド。」で、優れたデザインを、マーケティング、プロダクション、色・材質、パッケージなど、考えられる全ての部分で磨きをかけ作り上げることを得意とされています。「デザイナーは農耕民族、広告代理店は狩猟民族」など、ユーモアを交えたお話で会場は常に笑いに包まれていました。名児耶さんは終始楽しそうにまた熱く語られ、好奇心いっぱいの少年の心を持ち続け、ワクワク感、ウキウキ感がこちらまでビンビン伝わってくるそのパワーに圧倒されっぱなしでした。

谷尻さんの講演は新プロジェクトの紹介で音とファッションを結び付けた Hotel KOE の話、今は「食」を大切にしていること、食の質によって人間の細胞も変化することがわかったので細胞をデザインしている、スタッフと食べるランチの食材にこだわっていることなど、建築から派生した谷尻さん独自の発想、創造力は無限の境地に達していると思いました。学生を前に、「よりお金を使うと、リテラシーが高

くなるよ。」「悩むことはその場で立ち止まること、とにかく行動！ Want (やりたい) ではなく、have to (やっちゃった) を勧める。」など、学生の「やる気」に火をつける話に、皆さん真剣な面持ちで聞き入っていました。その後のフリートークで、名児耶さんは真面目より「やんちゃのススメ」を、谷尻さんは世の中はすべてデザインでできている。ナンパもデザイン、日常会話もデザインなので、常に問いかけながら意識して生きてみてはどうかとの示唆をいただきました。

午後からの講評会は、卒業生の方々が各学科で2年間学んだことを集大成としての発表がありました。審査員は前述の名児耶秀美さんと谷尻誠さんで、学生の作品を講評、具体的なアドバイスがありました。

昨年に続き今回は2回目の取材となりました。学生の皆さんの作品に対する柔軟な発想、建築や



デザインに対する情熱には感心させられました。

講評会に向けて緊張の面持ちの学生の方々にインタビューを行いました。

・ 萬野巧さんへのインタビュー

Q1：どういう作品なのでしょう。

A1：私の地元は岩国の錦帯橋付近です。観光客は多いのですが、錦帯橋を渡っただけで帰ってしまう現状を憂っていました。錦帯橋を渡った対岸に、お気に入りの場所があり、そこも皆さんに知ってほしいという思いがありました。

Q2：今回はどんな作品に仕上がったのですか。

A2：私は、景観・伝統・自然に恵まれたこの町が大好きです。それを、多くの方に知ってほしく、町にオブジェのような休憩所を作って、町全体を美術館のようにして、楽しめることを考えました。

Q3：写真がきれいですね。

A3：CGパースを使って作りました。他の案でも、町中に橋を作ってどこにでもいけるような作品にしてみようかとも思ったのですが、今回はあきらめました。



・ 小國裕磨さんへインタビュー

Q1：どんな作品なのでしょう。

A1：「走ることを楽しむ。」ことに特化したモビリティ（乗り物）です。

Q2：具体的にはどんなものなのでしょう。

A2：ぼくは車が大好きです。好きすぎて作品が炎上してしまいました。自分のコンセプトに忠実に、多くの人に魅力を感じてもらえるモビリティができればと思いました。自分が好きなことには、とにかく極めたいので、本当にいろんなことを考えて作品を作りました。（熱く語っていただきました）

Q3：今後は、どんなことをしたいですか。

A3：いずれは車のデザイン業界に携わりたいです。すぐには厳しいので、今後は、勉強を積むために、どの道に行こうか考えています。



・ 今川祐希さんへのインタビュー

Q1：どういう作品なのでしょう。

A1：基本生活を送る住居と社会経済に参加する職場や学校の間にある自由な場所「サードプレイス」です。

Q2：今回はどんな作品に仕上がったのですか。

A2：まだ完成形まで至っていないのですが、今までの経験をもとに試行錯誤して作りました。市内の商店街に、サードプレイスを作って、誰もがそこに入れて、自分らしくいられる場所を作りたいと思いました。今日はいろんな示唆を頂いたので、これからも考えながら修正していきたいです。

Q3：今後はどのような活動を考えていますか。

A3：まずは早く作品を完成させて、3月にある8大学卒業制作展に向けて、がんばりたいです。



続いて審査が始まりました。



【審査の様子】

なお審査結果は次のとおりでした。受賞者の皆様、誠におめでとうございます。

最優秀賞	商品企画デザイン学科	小國 裕磨さん
優秀賞	インテリアデザイン学科	萬野 巧さん
審査員特別賞	インテリアデザイン学科	今川 祐希さん
審査員特別賞	商品企画デザイン学科	福藤 由樹さん



【来年の卒業制作に向けてゲストにアドバイスを求める熱心な学生の皆さん】



【集合写真】

この度は、ゲストの名児耶さん、谷尻さんをはじめ、取材をコーディネートいただきました西尾先生、穴吹デザイン専門学校の皆様、ご多忙の中、取材へのご協力をいただき誠にありがとうございました。厚く御礼を申し上げます。

取材 畑稔大、熊野弘伸、大木一郎